

JANSI Annual Conference 2016 ご意見、ご質問への回答、見解について

区分	ご質問・ご意見内容(【 】内は JANSI 補足)	JANSI または発言者の回答・見解
セッション1 「競争環境下における原子力安全の確保」		
ご意見	竹内さんのいう「事業者に求められる三要素」のうちの(3)ステークホルダーとの対話の”避難計画作戦への協力”は大変地元としては喜ぶように思われる。 理由：規制委員会は退避指針を改定-30km に拡大、SPEEDI は使うなとただで、地元に対して協力していない。これに電力が協力すれば、自分自身もこういう事態にならないようにどうしたらよいか？ということにも真剣に考えるようになる。	ご意見ありがとうございました。 今後も原子力安全の確保のために原子力産業界として如何に行動すべきか皆様と共に考えられる機会を設定してまいりたいと思います。
ご意見	竹内要旨にあったのですが「安全をやるためのインセンティブが欲しい」といわれたのですが、これは甘えているのではないのでしょうか。安全を維持できなくて信頼を失った場合、市場からの退場が求められます。電力会社は地域独占ということで、これまではつぶせなかったのですが、例の雪印問題で会社はつぶれたということをよく考えてほしい。	ご意見ありがとうございました。 原子力においても、安全が維持できなければ退場となることは言うまでもありません。 竹内氏は、国が原子力を日本のベースロード電源として 2030 年に 20~22%の発電容量と位置付けているという前提で、建設リスクや自由化リスクの他に民間事業者の努力だけではどうにも克服することができないリスク(政治・規制変更リスク、無過失・無限責任といった事故リスク、バウエンド事業停滞リスク、訴訟リスク)というものが大変多くあるという事業である原子力について、規制の枠にとらわれない安全性の強化を進めていくには、自由化という制度に変わったことを機に、事業者の原子力安全強化、これを制度に取り組みというインセンティブが付与される設計にしないといけないのではないだろうか、と述べられたものと理解しています。
セッション2 「成果報告&ポスターセッション」		
ご意見	この時代、JANSI の活動を社会に発信していくこと、社会的に影響の大きな「司法」関係者(弁士、判事、ケンサツ)の法曹界関係者)立法方面にも情報共有活動と呼びかけるとかすべきではないか？	ご意見ありがとうございました。 JANSI の主要な活動については、ホームページ上で公開しております。また、原子力規制委員会委員長との意見交換、資源エネルギー庁のWG等においても JANSI の活動について紹介し、一般の方々にもご覧いただいております。JANSI は、民間の技術者組織として、科学的、合理的な見解の発信を社会に対して積極的に行うこととしており、ご意見については、今後の活動の進め方にあたり参考とさせていただきます。
ご意見	支援活動のその他として「QMS 活動」の海外調査結果について、内容を知りたい。	ご意見ありがとうございました。 JANSI の活動成果について、会員外の方々にはホームページ上での情報発信となっております。JANSI は会員の会費で運営し、その活動成果については会員に還元する組織であることをご理解ください。
ご意見	失礼ながら。日本版 NEI となることを JANSI は期待されている。にもかかわらず、依然としてそのような位置づけにあるとは到底思われない。そのことをどうお考えでしょうか。どう対応されているのでしょうか。国との対決(対話)＜姿勢＞がまず足りないのではないのでしょうか。重要な課題について正面から議論していませんね。どういう方針で、誰が、いつまでも、何をやるのか明確に(これまでの成果が出てないことを反省して)HP に掲載しなくてはいいけないと思います。	ご意見ありがとうございました。 JANSI は、2011 年 3 月に発生した福島第一原子力発電所事故のような外部への大量放射性物質放出を伴う過酷事故を二度と起こしてはならない、という日本の原子力産業界の総意に基づいて発足した自主規制組織、米国 INPO に倣った組織であり、米国 NEI のような役割を担った組織ではありません。昨年 Annual Conference 2015 のでも「JANSI が日本版 INPO になるのは大いに歓迎する。NRA と JANSI も重層的な良いコミュニケーションをとっていきたいと考えている。」と原子力規制委員会田中委員長から基調講演をいただいたとおり、国との対決とい

		うことではなく、原子力安全の向上において NRA と補完的な関係を築きたいと考えております。ただ、ご指摘の通り、まだ十分なコミュニケーションが出来ているとは言えず、今後とも一層の活動に努めたいと思います。
セッション 3 テーマ講演 & パネル討論について		
ご意見	再稼動のためにモチベーションの維持が大事ということだが、何年が限度だと思われますか？	ご意見ありがとうございました。 原子力については 3.11 以来長期にわたって稼働せず、原子力関係者のモチベーションの低下はご指摘のとおりだと思います。また、事故から 5 年が経過した今も依然として避難を余儀なくされている多くの住民の方々にとっても深刻な問題と推察します。モチベーションを維持し続けることは難しく、自ずと限界はありますが、その限界は対象によっても、個人によっても異なり一概に示すことは困難のようです。震災後、新規制基準が制定され、これに適合した原子力発電所の安全な再稼働が達成された今、これを一つの刺激として原子力の安全性向上に向けて皆様と一緒に活動を進めていきたいと思ひます。
ご意見	・小川さんでないが、ロールプレイとして、原発再稼働反対派の立場に立って考えると最も効果的な反対の主張になると思われますか？ ・福島 of 教訓の反映のたえない watch は大事ですね。	ご意見ありがとうございました。 小川氏からは、原子力技術者においても一般の方への説明は自分の仕事ではないと考えずに、一般の方が持つ疑問に簡単な言葉で考えを伝えられるように心掛けることが社会的な信頼を得ることにつながる、というお話があったと理解しています。この一般の方々が持つ疑問の中に原子力に慎重な方々の意見も含まれると考えます。 福島第一原子力事故の教訓については、決して風化させることなく、たゆまぬ原子力安全の追求を進めてまいります。
その他		
ご意見	熱心なプレゼンテーションに原子力安全に対する強い思いが伝わってきました。安全を担うのは人ですので、今後どう人材を育成していくかが課題だと感じています。	ご意見ありがとうございました。 今後の人材の確保、育成、強化については、基調講演をいただいたプレストン氏、第 1 セッションに登壇いただいた八木氏、勝野氏、竹内氏、長野氏、第 3 セッションの瓜生氏、真弓氏からも重要な課題と指摘がありました。 JANSI も第 2 セッションの活動成果報告の中で人材育成プログラムを手掛けて事業者の安全育成に取り組んでおりますが、JANSI 自らの人材育成についても真剣に取り組んでまいります。